

## 令和4年度「医療と福祉の相互理解についてのワーキング」方針

### 1 目的

地域で暮らす障害のある方の医療機関受診や健診等に関して、電話やオンライン診療により病院に行かなくとも受診できる仕組みや、病院の駐車場で診療待ちができる対応等、近年のコロナ禍において障害のある方への受診に対する配慮の取組が広がり始めている。

しかし、障害の特性や医療機関の状況により、障害のある方が診療や健診を受ける際に様々な場面で困難を伴うとの声が当事者や関係者より寄せられている。

本ワーキングでは、当事者、医療従事者、福祉関係者が病院での受診や在宅診療並びに健診時における課題や意見を出し合い、双方の理解をより一層深めることで、障害のある方が安心して受診できるような環境づくりについて検討する。

### 2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

ワーキングメンバー及び医療・福祉関係者から意見を伺い、医療面における現状を把握する。現状を踏まえ、調布市医師会にアンケートを実施し、アンケート結果から導きだされた課題を考察、検証する。

### 3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長	山本 雅章	（調布市社会福祉事業団 業務執行理事）
	西田 伸一	（調布市医師会 会長）
	伊藤 文子	（訪問看護ステーションあんあん 所長）
	進藤 美左	（調布心身障害児・者親の会 会長）
	江口 正和	（調布市身体障害者福祉協会 会長）
	愛沢 法子	（調布市視覚障害者福祉協会 会長）
	井村 茂樹	（調布市聴覚障害者協会 会長）
	江頭 由香	（調布市精神障害者家族会かささぎ会 会長）
	秋元 妙美	（一般社団法人 障害者自立相談支援協会 代表）
	栗城 耕平	（新樹会 地域生活支援センター 希望ヶ丘 施設長）
	円舘 玲子	（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 障害者地域生活・就労支援センター ちょうふだぞう 施設長）

### 4 事務局

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 ドルチェ  
調布市障害福祉課

### 5 令和4年度のワーキングにおける成果目標

受診等の際し、障害当事者及び医療側の現状や課題を把握する。また、調布市医師会にアンケートを実施し、その結果から相互理解において何が必要なのかを検証する。